

南 薫 西 遺 跡

— 第8次発掘調査報告 —



平成 27 (2015) 年 9 月
久留米市教育委員会

序

久留米市は筑紫平野の中心に位置し、耳納山地の緑、筑後川の水など豊かな自然に恵まれています。この環境のもと、先人達は多くの文化を創造し、貴重な文化遺産を数多く残してきました。

本書で報告する南薫西遺跡は、奈良時代から平安時代の集落を中心とした遺跡です。今回の調査では、大型建物跡の発見や、多くの墨書土器の出土など重要な成果が得られました。本調査の結果が、久留米の歴史の解明やその普及、及び、郷土への関心に多少なりとも貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして、多大なご理解のもとにご協力をいただきました、有限会社クリーンセンターあさくら様や関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成 27 年 9 月 30 日

久留米市教育委員会
教育長 堤 正則

例 言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち有限会社クリーンセンターあさくらの委託を受けて実施した、南薫西遺跡第8次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の小川原励が担当した。
3. 本書に掲載した遺構実測図の作成は、神保公久・小川原・石橋英二・鐘江清・山口誠也が行った。また、遺物実測図の作成と図面の浄書は、小川原と専任非常勤職員の古賀和子・丸山裕見子・米澤美詠子が行った。
4. 本書に掲載した遺物・遺構写真は、マミヤ RZ67、デジタルカメラを用いて小川原が撮影した。
5. 遺構実測図は国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基に作成し、図面の方位は全て座標北を示す。
6. 本書に使用した遺構の略記号は、SB－掘立柱建物、SD－溝、SK－土坑、SP－ピットを示す。
7. 本調査に関わる出土遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
8. 本調査の略記号はNKN－008、調査番号は201410である。
9. 赤色顔料について、志賀智史氏（九州国立博物館）にご指導・助言を頂いた。
10. 本書の執筆は小川原・米澤が行い、編集は小川原が行った。

本文目次

I. はじめに	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	4
IV. 総括	24

I. はじめに

1. 調査に至る経過

本調査は、共同住宅建設に伴う事前の発掘調査である。平成 26 年 7 月 1 日、当時の土地所有者から、久留米市南薫西町 1938-1 における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地一帯は、周知の埋蔵文化財包蔵地である南薫西遺跡にあたり、平成 26 年 7 月 8 日に確認調査を行った。その結果、対象地において遺物や遺構が確認されたため、建物建設部分について発掘調査が必要である旨を回答した。協議の結果、調査費用を原因者負担として発掘調査を行う運びとなった。平成 26 年 9 月 2 日に有限会社クリーンセンターあさくら（代表取締役社長 原 伸二氏）から「発掘調査の依頼」が提出されたのを受け、文化財保護法に関する諸手続きを済ませた後、平成 26 年 9 月 11 日に同社と久留米市長檜原利則は「南薫西遺跡第 8 次調査埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を取り交わした。平成 26 年 9 月 18 日に現地調査を開始した。調査地南端部は攪乱の影響を受けて、遺構の残存状況が悪かったため、現地調査は予定より早く平成 26 年 10 月 31 日に終了した。報告書作成の委託契約期間は平成 27 年 5 月 1 日から 9 月 30 日である。

2. 調査の体制

（平成 26 年度）

調査委託：有限会社クリーンセンターあさくら（代表取締役社長 原 伸二）

調査主体：久留米市教育委員会 教 育 長 堤 正則

調査総括：市民文化部 部 長 野田 秀樹

次 長 竹村 政高

文化財保護課 課 長 園井 正隆

課長補佐 宮崎 俊一

課長補佐兼主査 白木 守

事務主査 塚本 映子

庶務担当 豊福 早苗

調査担当 小川原 励

整理担当 米澤美詠子

発掘調査臨時職員

青木 佐智子・荒巻 隆徳・石橋 英二・石橋 康子・鐘江 清・溝上 国男・御手洗 久直

山口 誠也・山下 洋子（50 音順）

発掘調査整理臨時職員

石橋 洋子・野口 夏希

(平成 27 年度)

調査主体：久留米市教育委員会

教 育 長 堤 正則

調査総括：市民文化部

部 長 野田 秀樹

次 長 竹村 政高

文化財保護課

課 長 園井 正隆

課長補佐兼主査 白木 守

課長補佐 山崎万里子

課 主 査 水原 道範

事務主査 豊福 早苗 塚本 映子

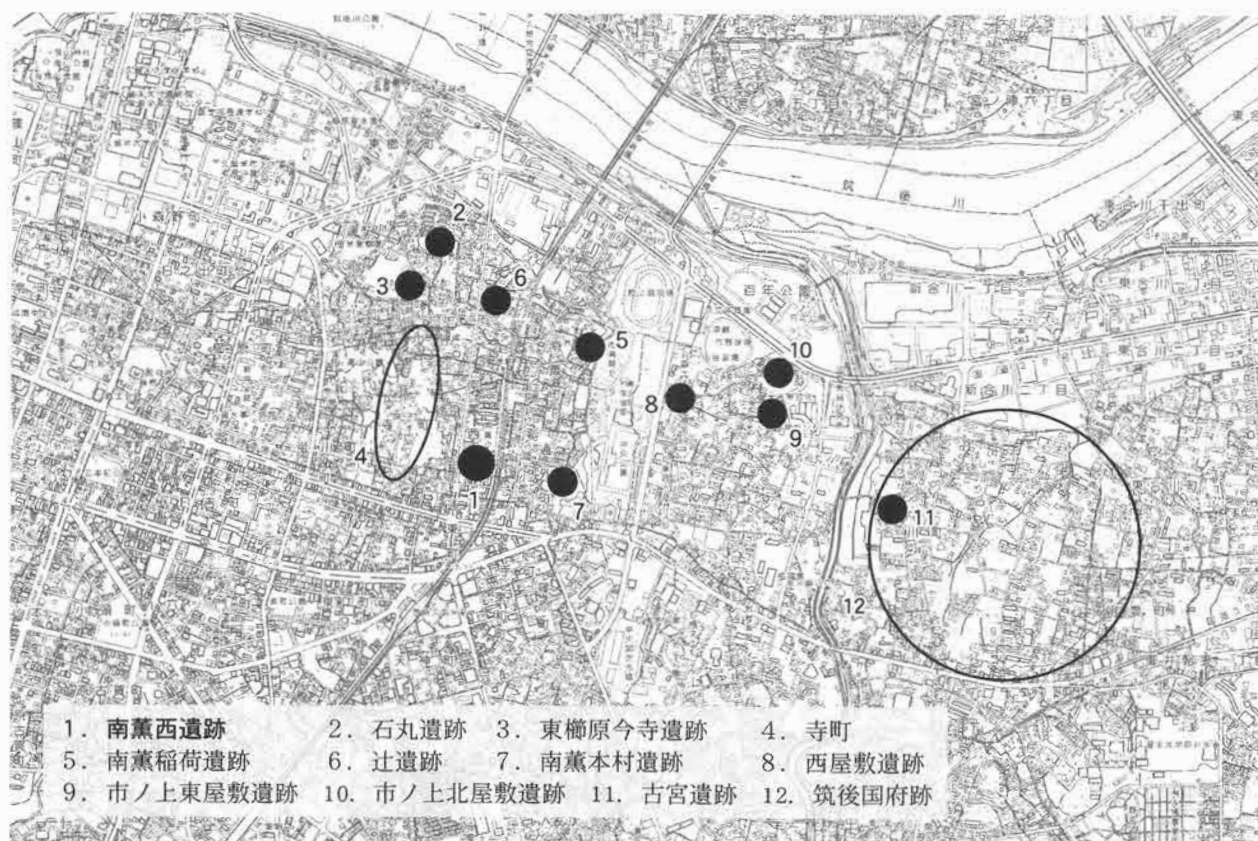
調査担当 小川原 励

整理担当 古賀 和子 丸山裕見子 米澤美詠子

Ⅱ. 位置と環境

南薫西遺跡は、久留米市街地の北側に位置し、南から北の筑後川へ向かって延びる低台地の中央部に立地する。標高は約 14m を測り、西側の谷地から若干小高くなっている。

筑後川左岸の低段丘上には弥生時代の遺跡を中心に、多くの遺跡が展開しており、調査地周辺でも弥生時代の遺跡が集中している。本遺跡の北側に位置する東櫛原今寺遺跡は前期末～後期にかけての集落遺跡である。石丸遺跡は前期末～中期中頃に営まれた甕棺墓群が発見され、148 基の甕棺



第1図 南薫西遺跡周辺の主要遺跡等分布図 (1/25,000)

が検出されている。辻遺跡は前期～後期に及び、集落や甕棺墓が展開する。

北東側に位置する南薫稲荷遺跡からは前期後半の支石墓が検出されている。市ノ上北屋敷遺跡からは中期以前の環状土坑列が検出され、板付Ⅱ式段階の壺棺墓が検出されている。古宮遺跡からは終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴建物が密集した状態で検出されている。

古墳時代には西屋敷遺跡や東櫛原今寺遺跡で竪穴建物が確認されているものの、大規模な遺跡は確認されていない。

歴史時代に入ると、東側約1.5kmの台地上に7世紀後半に筑後国府跡「前身官衙」が設置されたのち、筑後国府が設置される。7世紀末から8世紀中ごろにかけて南北約180mの築地塀で区画されたⅠ期政庁が営まれる。8世紀中頃、Ⅰ期政庁から約200mの位置にⅡ期政庁が営まれる。9世紀前半に瓦葺となり、10世紀中頃まで存続する。

本遺跡では第6次調査で飛鳥時代から平安時代の土坑、竪穴建物、掘立柱建物が検出されている。また墨書土器・刻書土器が22点ピットや土坑から出土している。律令期の「節原郷」との関連を示唆する「大領」・「領」や「芋原」などの記述が確認された。

中世には石丸遺跡で大型銭（崇寧重寶）や大量の輸入陶磁器が出土し、辻遺跡では大規模な区画溝が検出されている。

近世には、本遺跡の西側に寺町、南側に久留米城下町が整備されるが、調査地はその北側に広がる節原村に含まれる。



第2図 周辺地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)

Ⅲ. 調査の記録

1. 調査の目的と経過

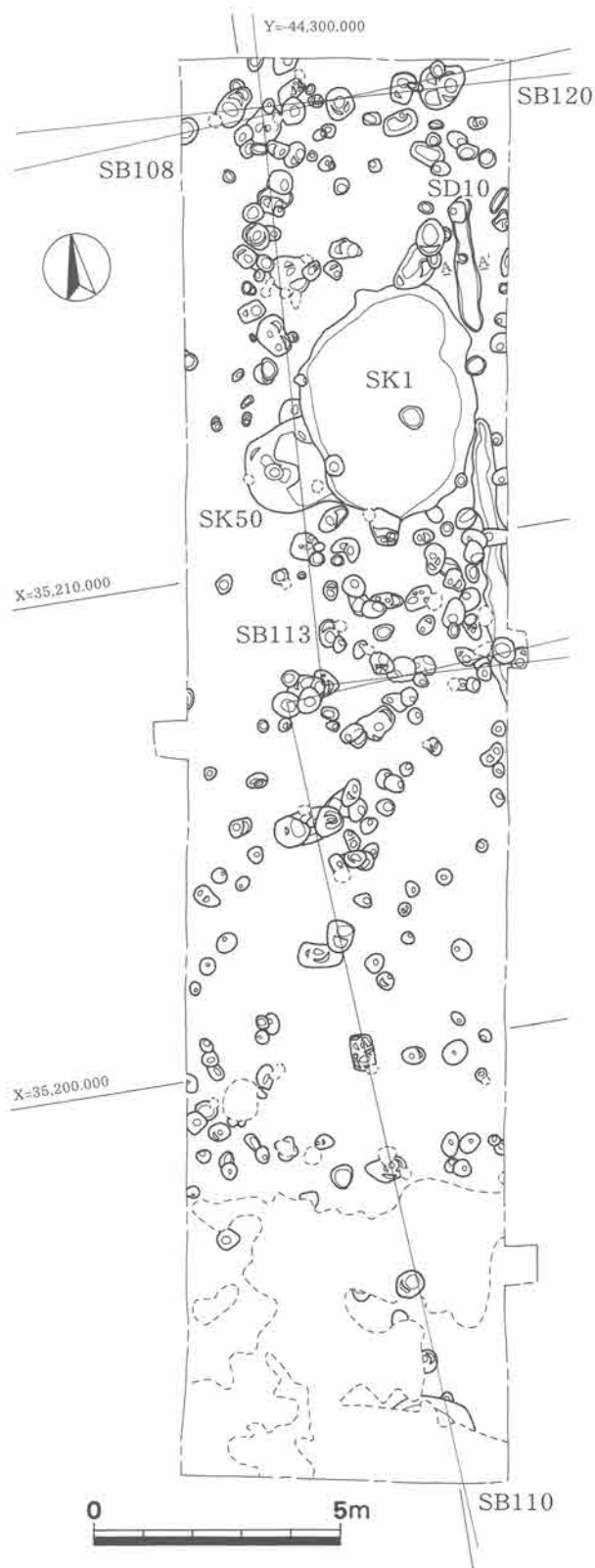
調査地は、南薫西遺跡第6次調査地の南約100m、第7次調査地の南東約50mに位置する。第6・7次調査の結果、本調査地周辺が7世紀～8世紀を中心とした節原郷における集落の中心であることが推定されている。そのため、今回の調査は集落の状況とその性格を探ることを目的とした。

調査は、平成26年9月18日に重機を搬入し、表土剥ぎを開始した。その後、作業員により遺構検出を開始し、併行して平板測量による略図作成を実施した。測量終了後、遺構の掘り下げを行い、個別実測図の作成や写真撮影を実施した。10月24日に全景写真を撮影した。その後、図面作成と併行し、埋め戻しを行い、最終的に調査が終了したのは10月31日である。

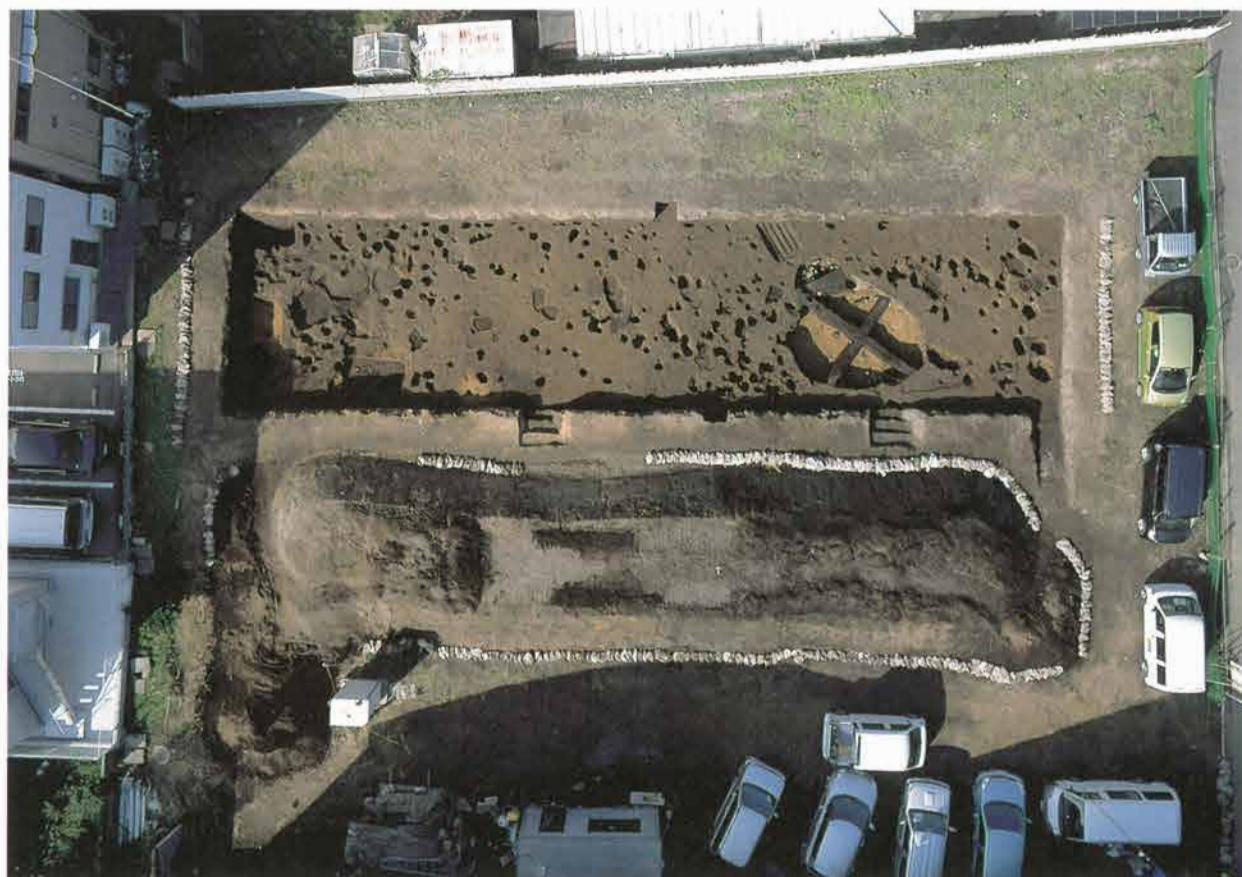
個別遺構・土層実測図（S=1/10）は手測りで作成したが、それ以外の遺構実測は、トータルステーションを用いて行い、その記録は株式会社CUBIC製ソフト「遺構くん Cubic」で編集・保管している。遺構の記録写真は、全景写真をカラーリバーサル・モノクロームともに（有）空中写真企画が6×6判で撮影し、その他を小川原がカラーリバーサル・モノクローム6×7判で撮影した。一部遺構はデジタルカメラで撮影した写真を掲載している。

2. 検出遺構

対象地は、宅地と畑地として利用されていた。表土下0.7m程度で遺構検出面に達する。遺構検出面は北側が高く南側へ向かい緩やかに低くなる。地山面は褐色粘質土で第6次調査と同様に水はけが良く、掘りやすい土質であった。調査区南部は近代から現代にかけてのごみ穴などにより、遺構の残存状況は悪かった。一部、必要に応じて調査区を拡張している。



第3図 南薫西遺跡第8次調査遺構配置図 (1/150)



第4図 調査区全景（西上空から）

調査区からは掘立柱建物4棟、溝1条、土坑2基、ピット等を検出した。以下、主要遺構について説明を加える。

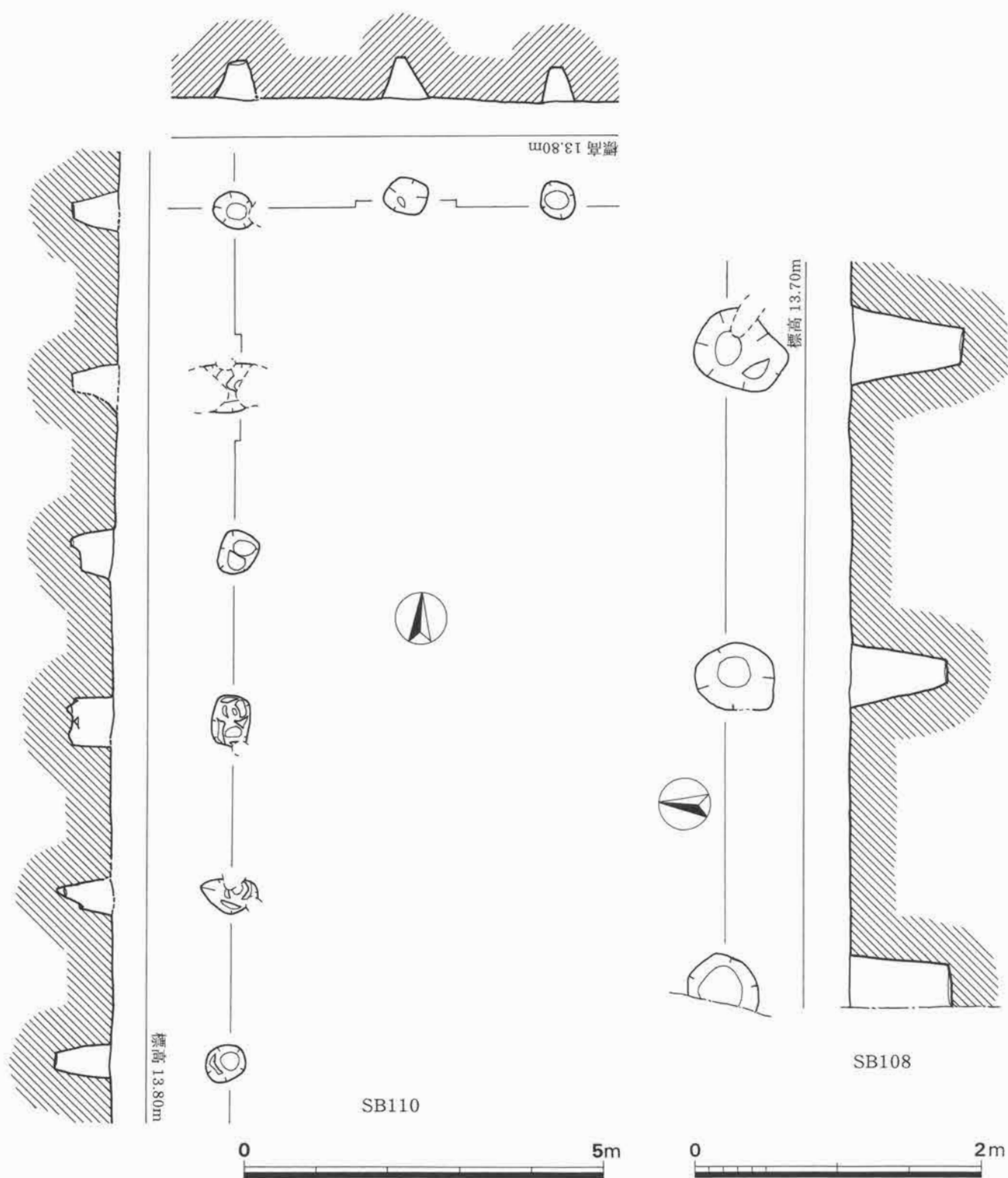
掘立柱建物

SB108（第5図）

調査区北部で検出した。南柱列の一行のみの確認であるが、計画方位が後述するSB110と等しく、掘方の形状も似ていることから柵ではなく掘立柱建物とした。建物は北側もしくは東西方向に広がると考えられる。柱間は2.3m等間である。柱穴は直径0.4～0.6mの円形または隅丸方形を呈す。深さは0.7～0.8mを測る。掘方の埋土からは、土師器の坏、甕、須恵器の蓋細片などが出土している。建物の主軸はN-4°-Wである。

SB110（第5図）

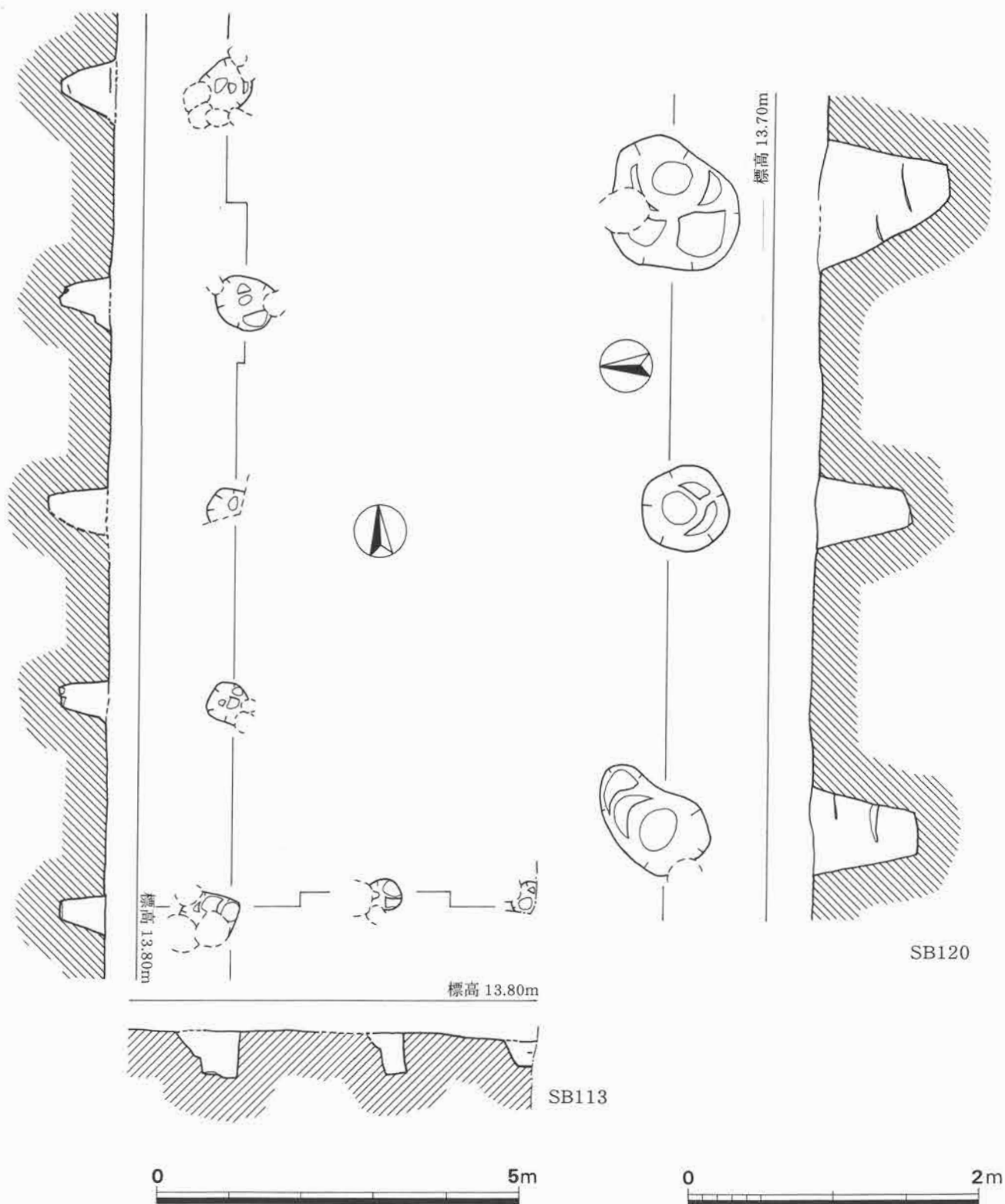
調査区南部で検出した。SB113に後出する。建物の南東部分は調査区の東側へ広がるため全容は不明であるが南北棟の建物と考えられる。調査区南西部を一部拡張したが柱穴は確認できなかったため、建物はさらに南側へ広がると考えられる。桁行6間（12.1m）以上、梁行2間（4.5m）以上で、柱間寸法は、桁行は西側柱列で、南から2.5m+2.4m+2.4m+2.4m+2.4m、梁行は北側柱列で西から2.3m+2.2mを測る。柱穴は直径0.5～0.6mを測る。掘方の埋土から土師器の坏、甕、瓦片、砥石などが出土している。建物の計画方位はN-4°-Wである。



第5図 SB108・SB110 実測図 (1/80)

SB113 (第6図)

調査区北部で検出した。建物の北東部分は調査区の東側へ広がるため全容は不明であるが南北棟



第6図 SB113・SB120 実測図 (1/40, 1/80)

の建物と考えられる。桁行6間(17.1m)以上、梁行2間(4.6m)以上で、柱間寸法は、桁行は2.85m等間、梁行は2.3m等間である。柱穴は直径0.4~0.75mを測る。掘方の埋土から土師器の坏、

甕、黒色土器A類細片などが出土している。建物の計画方位はN-7°-Eである。

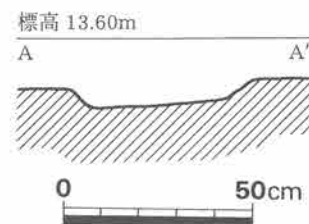
SB120 (第6図)

調査区北部で検出した。SB108と同様、南柱列1列のみ確認できたが、掘立柱建物とした。建物は東西もしくは北側に広がると考えられる。柱間は2.3m等間である。柱穴の直径は0.5~1.0mを測る。掘方の埋土から土師器の坏、甕、瓦片などが出土している。

溝

SD10 (第7図・第8図)

調査区北西部で検出した。SB110、SB113に後出する。北調査区北端から6.0m付近で浅くなり、いったん途切れるが、1.8m先で再び検出されたあと、5.5m程南東へ延び調査区外に広がっている。上端幅約0.5m、深さ約0.05mを測る。断面は逆台形を呈す。溝の走行方向はSB113の南北方向の方位と概ね同じである。



第7図 SD10 断面図 (1/20)



第8図 SD10 完掘状況 (北から)



第9図 SK1 遺物出土状況 (北東から)

土坑

SK1 (第9図・第10図)

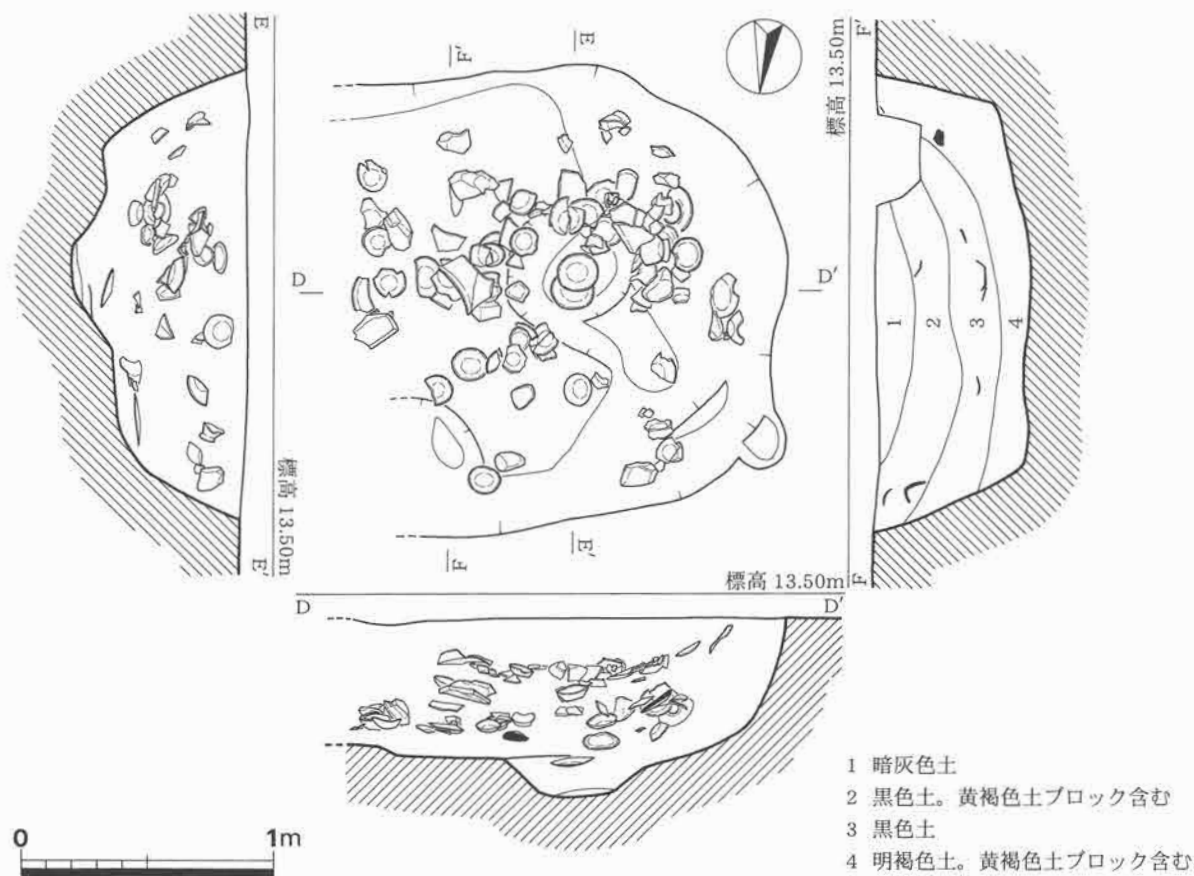
調査区北部で検出した。平面形は長軸約4.8m、短軸約3.5mの楕円形を呈す。深さ約0.9mを測る。SK50、SB113に後出する。多量の遺物が出土している。遺物は埋土上部と底部に集中する。底面はほぼ平坦で、壁面は一部オーバーハングする部分もある。土師器の坏・皿・埴・甕、須恵器の坏・蓋・壺、黒色土器A・B類、緑釉陶器、瓦、輸入陶磁器、鉄器、鉄滓、金床石、砥石、羽口片などが出土している。土師器の坏・皿・埴には油煙が付着したものが目立つ。また、土師器を利用した墨書土器が多量に出土している。

SK50 (第11図・第12図)

調査区北西部で検出した。SB113に後出する。SK1に切られているがほぼ円形を呈す。直径約1.8m、深さ約0.7mを測る。中央底部がわずかにくぼみ、北西に2段、段差を有する。土師器の坏・皿・埴・甕、須恵器の坏・蓋、黒色土器A類、緑釉陶器、輸入陶磁器などが出土している。



第10図 SK 1 実測図 (1/40)



第11図 SK50 実測図 (1/30)

3. 出土遺物

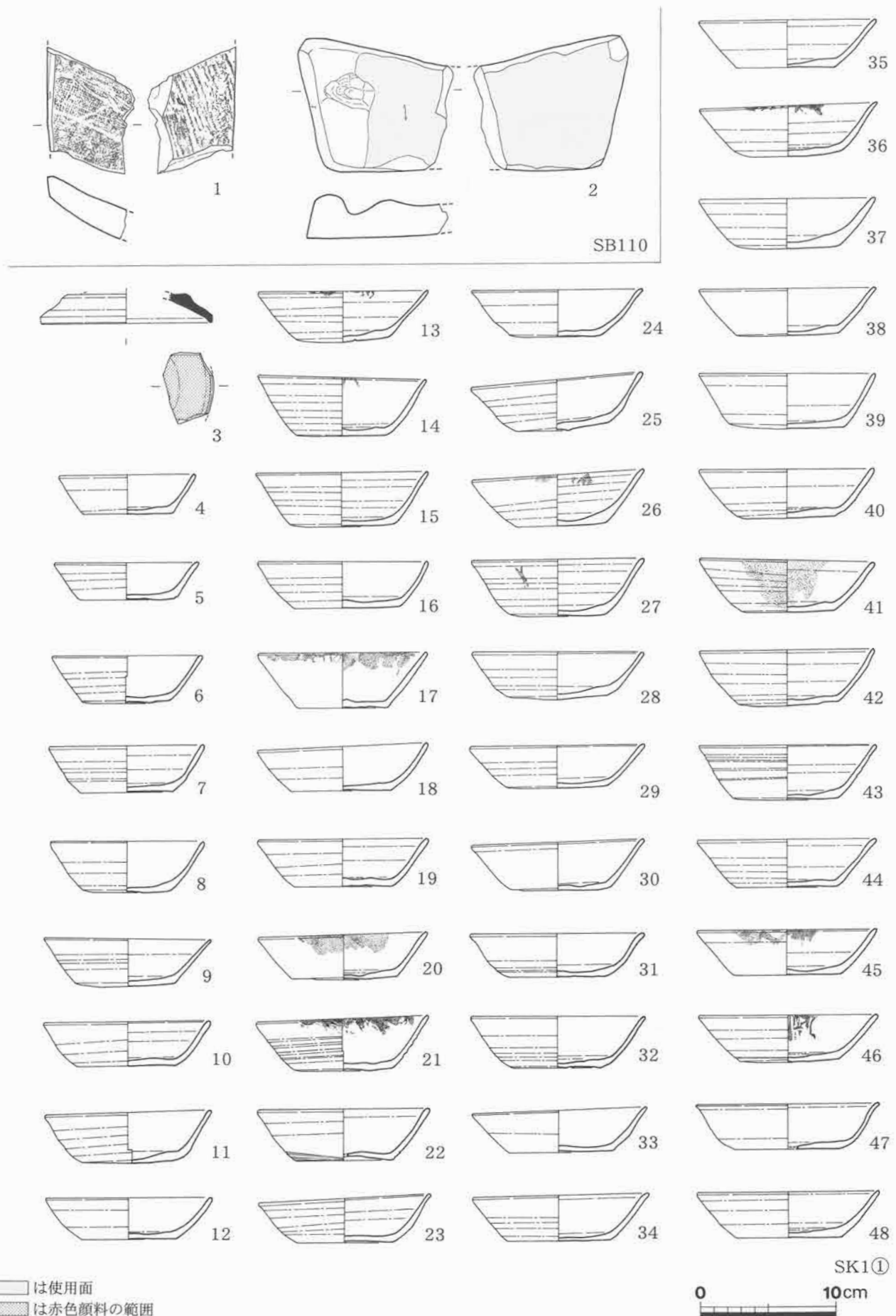
第8次調査では、調査地南部が攪乱によって遺構の残存状況が悪かったにも関わらず、多くの遺物が出土した。特にSK1、SK50から総量の4分の3以上出土している。総量はパンコンテナー18箱である。

多くの出土遺物の中で、本調査で特に注目されるものは、墨書土器である。本報告には判別が易しい資料のみを掲載しているが、116点の墨書を有する土器が出土しており、市内において有数の出土量である。ここでは個々の遺物に

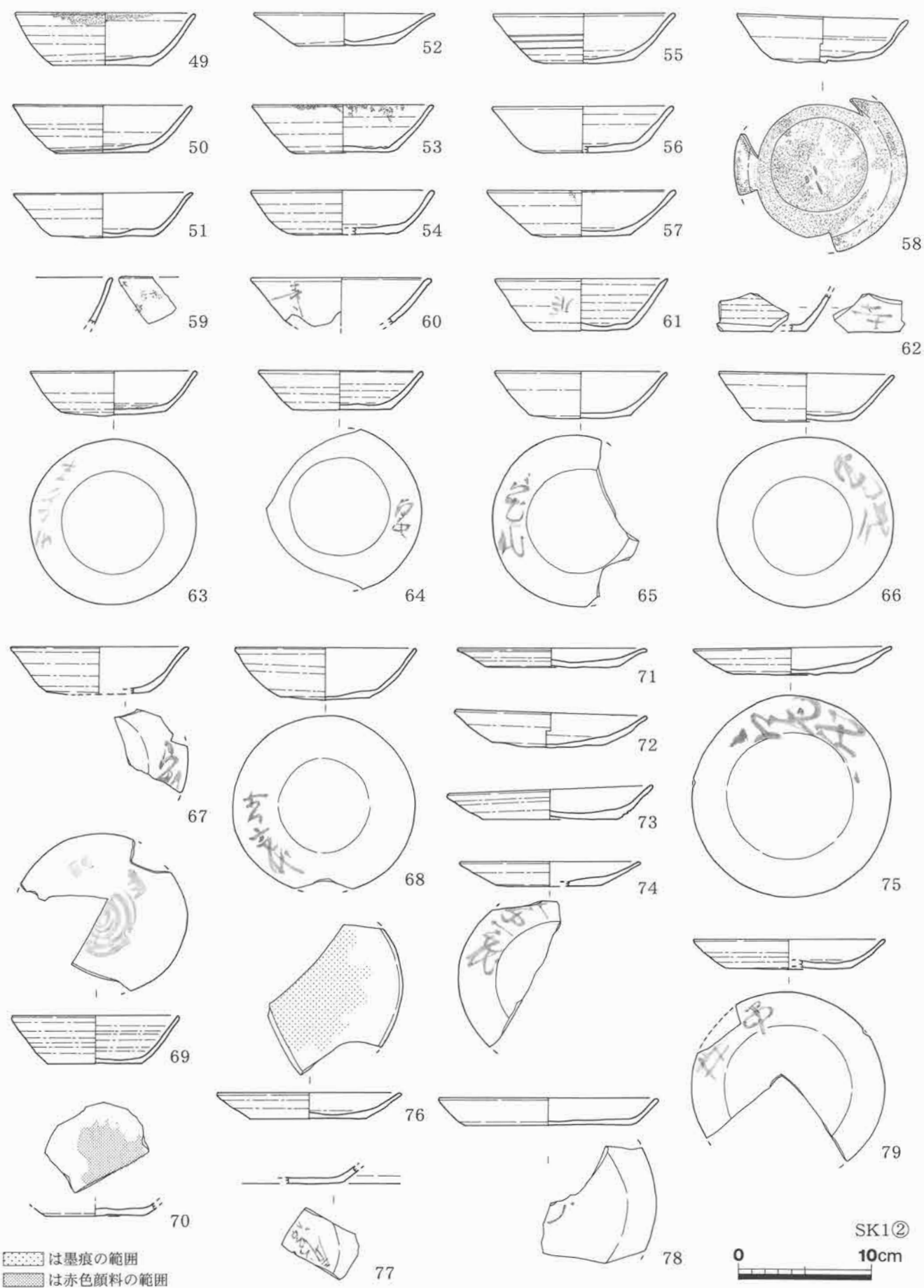


第12図 SK50 遺物出土状況 (西から)

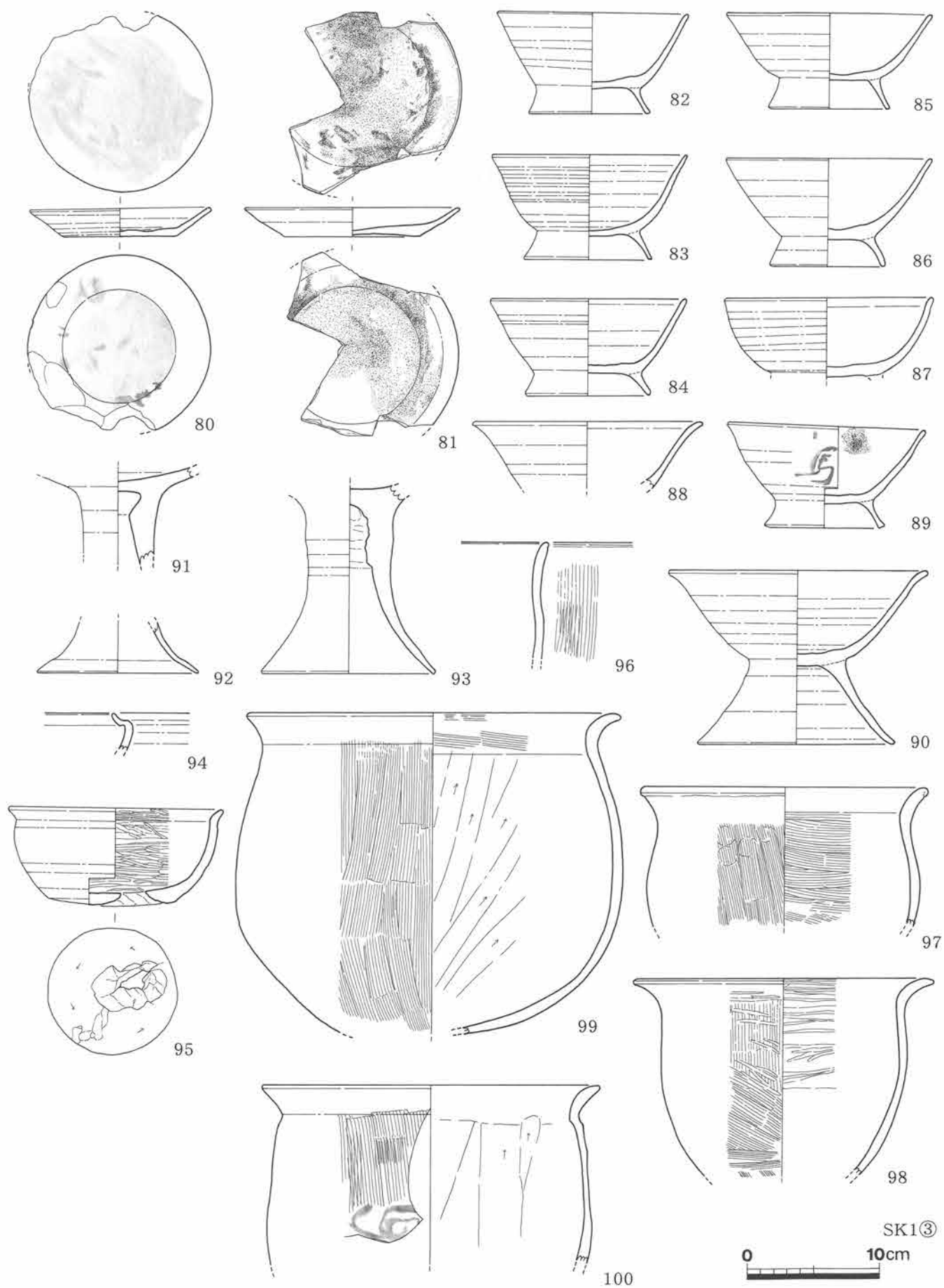
について説明は加えないため、詳細は第1～4表の出土遺物観察表を参照されたい。



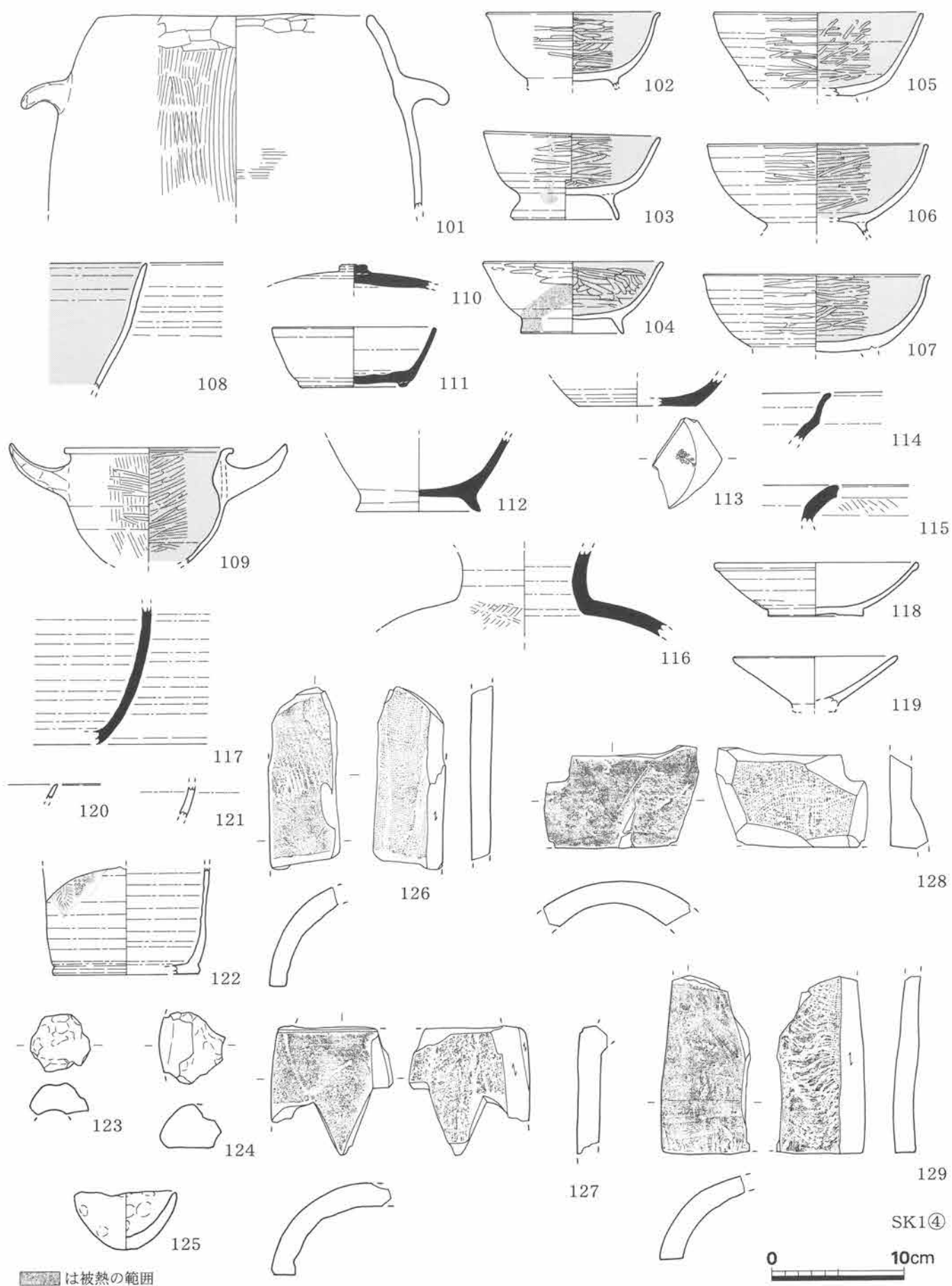
第13図 出土遺物実測図① (1/4)



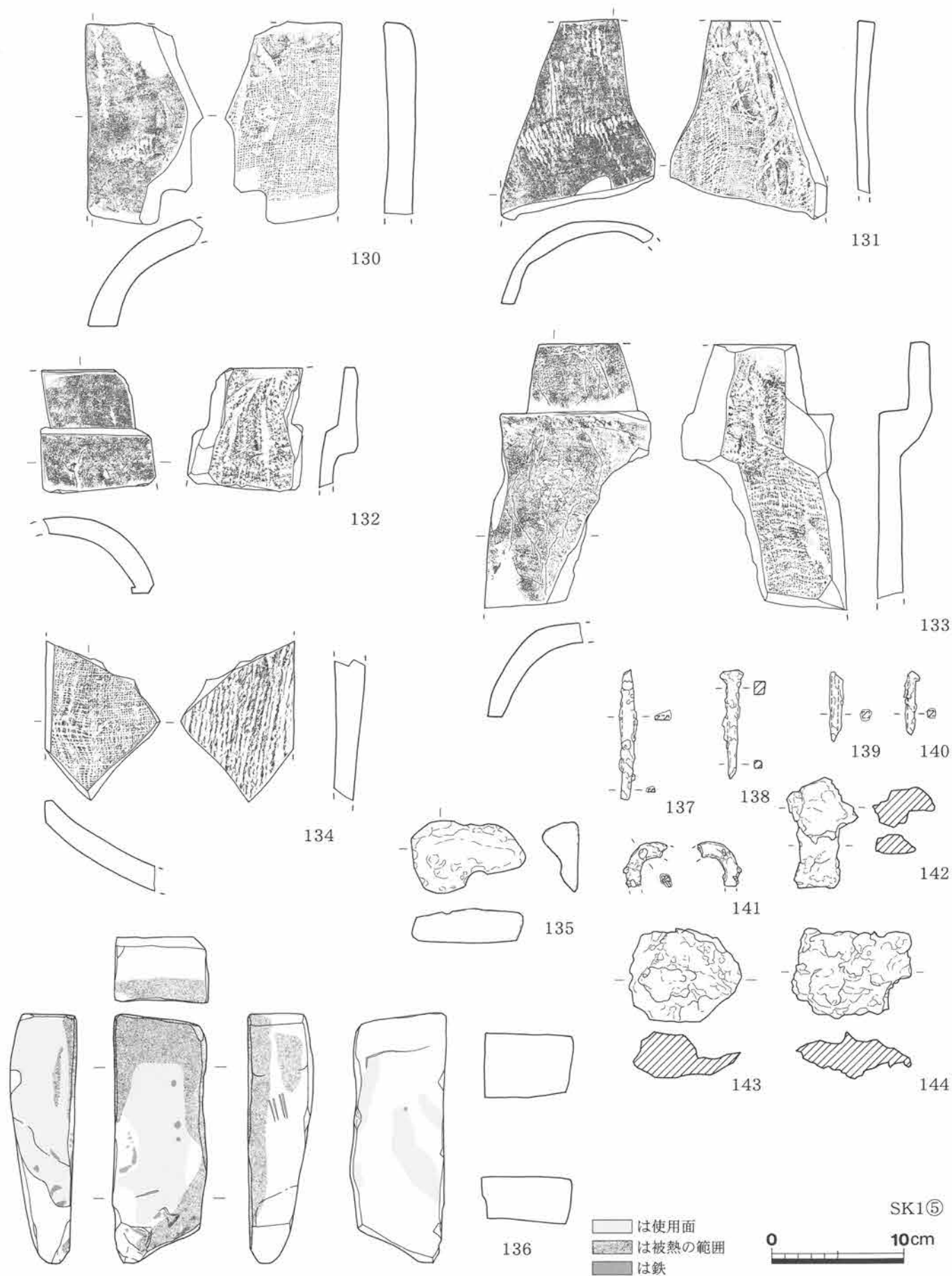
第14図 出土遺物実測図② (1/4)



第15図 出土遺物実測図③ (1/4)

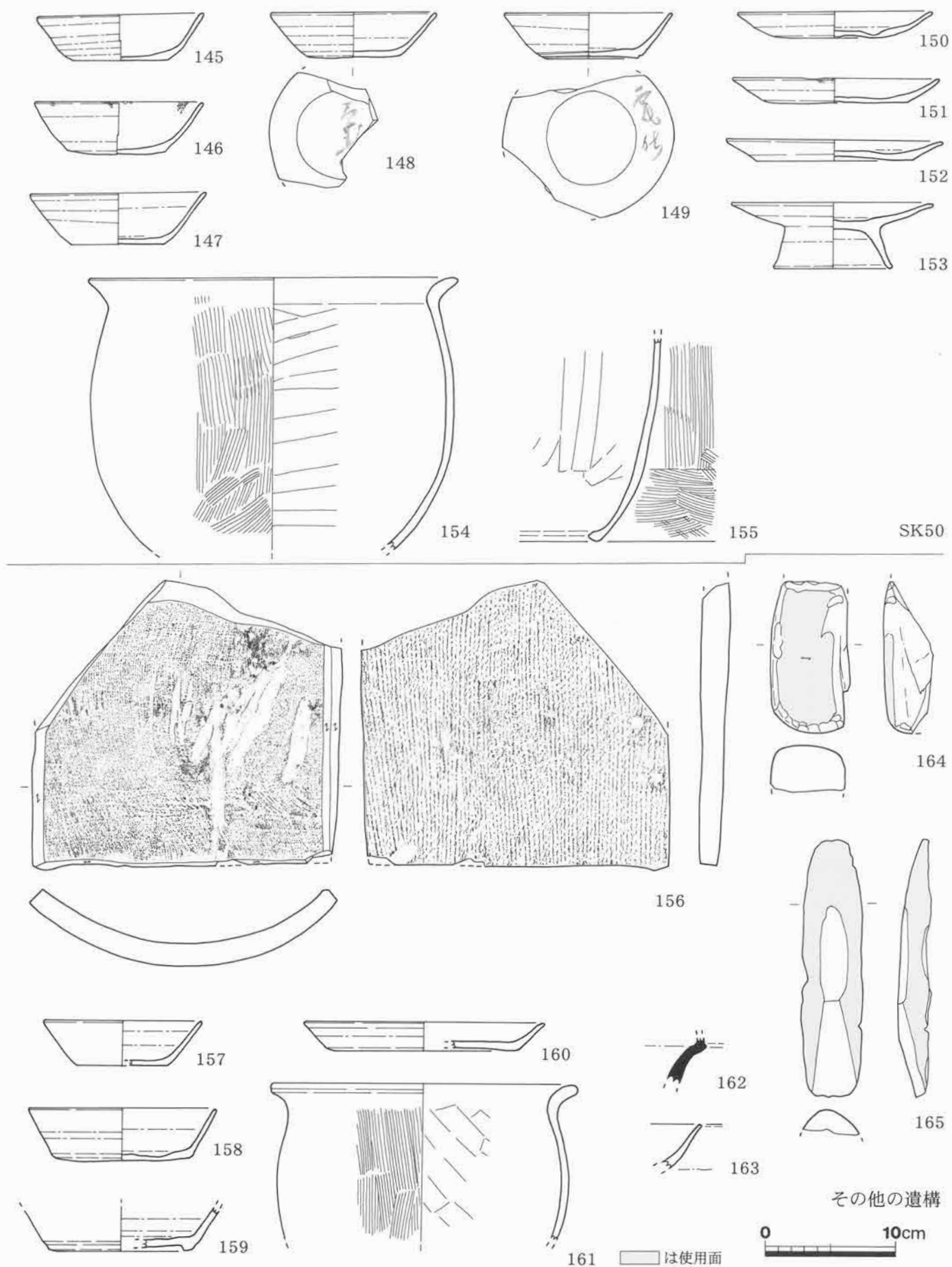


第16図 出土遺物実測図④ (1/4)



第17図 出土遺物実測図⑤ (1/4)

Ⅲ. 調査の記録



第18図 出土遺物実測図⑥ (1/4)

第1表 出土遺物観察表①

遺物No	出土遺情	種 別	器 形	法量			色調		調整		胎 土	備 考	遺物登録 番 号
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	外面	内面	外面	内面			
1 第13図	SB110	瓦	平瓦	9.5	6.2	2.2	黄灰	黄灰	布目	縄目	砂粒含む		201410 000008
2 第13図	SB110	石製品	砥石	11.5	9.9	3.2	灰黄						201410 000009
3 第13図	SK1	須恵器	蓋	[12.8]	[8.8]	(2.1)	橙 にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	微砂粒(石英・雲母・ 長石・角閃石)含む	内面に赤色顔料 (ベンガラ) 付着	201410 000043
4 第13図	SK1	土師器	坏	10.2	6.6	2.9	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000087
5 第13図	SK1	土師器	坏	10.8	7.3	2.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000085
6 第13図	SK1	土師器	坏	11.2	6.4~ 6.6	3.2~ 3.7	にぶい黄橙 灰	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母・石英)含む	底部に板状瓦痕	201410 000046
7 第13図	SK1	土師器	坏	[11.6]	[6.8]	(3.5)	にぶい黄橙	橙	回転ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000103
8 第13図	SK1	土師器	坏	[11.2]	[6.6]	3.8	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000059
9 第13図	SK1	土師器	坏	12.5	7.5	3.4~ 3.7	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000130
10 第13図	SK1	土師器	坏	13.4	7.4	3.3	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000076
11 第13図	SK1	土師器	坏	12.0~ 12.4	7.4~ 7.6	3.6~ 3.9	橙 にぶい黄橙	橙 にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒(雲母・ 石英・長石)含む	底部に板状瓦痕	201410 000050
12 第13図	SK1	土師器	坏	[12.4]	7.1	(3.1)	灰黄褐	灰黄褐	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒(金雲母)含む	全体に煤付着	201410 000078
13 第12図	SK1	土師器	坏	[13.6]	6.7	(3.7)	橙	橙	回転ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕 内外面に油煙付着	201410 000138
14 第13図	SK1	土師器	坏	12.4	6.5	4.2~ 4.6	橙	橙	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	内外面に油煙付着	201410 000093
15 第13図	SK1	土師器	坏	12.8	7.8	4.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000108
16 第13図	SK1	土師器	坏	12.7	7.9	3.4~ 3.5	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000112
17 第13図	SK1	土師器	坏	[12.4]	[6.2]	4.1	にぶい黄橙	浅黄	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (石英)含む	内外面に油煙付着 内外面に土剥離	201410 000147
18 第13図	SK1	土師器	坏	12.7	7.4	3.1~ 3.5	橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000111
19 第13図	SK1	土師器	坏	12.8	7.4	3.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000036
20 第13図	SK1	土師器	坏	12.6	7.8	3.2~ 3.5	にぶい黄橙	橙	回転ナデ ヘラ切り・ナデ	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	内外面に油煙付着	201410 000083
21 第13図	SK1	土師器	坏	12.8~ 12.9	7.2~ 7.4	3.6~ 4.1	橙 にぶい橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母・石英)含む	底部に板状瓦痕 内外面に油煙付着	201410 000040
22 第13図	SK1	土師器	坏	12.8	7.4~ 7.7	3.7~ 3.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒(雲母・ 長石・石英)含む	外面体部下に沈線 底部に板状瓦痕	201410 000047
23 第13図	SK1	土師器	坏	12.8	7.1	3.0~ 3.7	にぶい橙~ 灰黄褐	にぶい橙~ 灰黄褐	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000091
24 第13図	SK1	土師器	坏	[12.7]	6.8	(3.6)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000114
25 第13図	SK1	土師器	坏	12.8	7.0	3.3~ 4.4	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000128
26 第13図	SK1	土師器	坏	12.8	5.7	3.5~ 4.2	にぶい黄橙	橙	回転ナデ ヘラ切り・ナデ	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	内外面に油煙付着	201410 000145
27 第13図	SK1	土師器	坏	[12.8]	7.2	(4.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕 外面に煤付着	201410 000080
28 第13図	SK1	土師器	坏	[12.8]	7.4	(3.6)	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒(金雲母)含む	外面に指痕ナデ	201410 000125
29 第13図	SK1	土師器	坏	[13.0]	7.4	(3.2)	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000013
30 第13図	SK1	土師器	坏	12.6	7.6	3.8	橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母)含む		201410 000146
31 第13図	SK1	土師器	坏	[12.6]	[7.0]	3.2	にぶい黄橙	褐灰 にぶい橙	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	内外面に黒斑 内面赤色化	201410 000061
32 第13図	SK1	土師器	坏	[12.8]	[6.4]	3.8	にぶい橙	にぶい橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕・ 刷毛目・刻み目	201410 000060
33 第13図	SK1	土師器	坏	13.0	7.6	2.9~ 3.3	暗灰黄	暗灰黄	回転ナデ ヘラ切り・ナデ	回転ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000022
34 第13図	SK1	土師器	坏	12.8	7.6	3.5	にぶい橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (石英)含む		201410 000148
35 第13図	SK1	土師器	坏	[13.1]	7.3	(3.6)	にぶい黄橙~ 黒	にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000037
36 第13図	SK1	土師器	坏	13.1	8.0	3.7~ 4.0	にぶい黄橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	内外面に油煙付着	201410 000082
37 第13図	SK1	土師器	坏	[13.0]	[7.6]	(3.8)	灰白	灰白	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000127
38 第13図	SK1	土師器	坏	13.0	7.6	3.5	にぶい黄橙~ 黒褐	にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り・ナデ	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000131
39 第13図	SK1	土師器	坏	13.0	8.5	4.2	にぶい黄橙~ 黒	黒	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕 内外面に煤付着	201410 000074
40 第13図	SK1	土師器	坏	13.0	6.7	3.7	橙	にぶい黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000143
41 第13図	SK1	土師器	坏	13.0	6.9	3.7~ 4.1	にぶい黄橙~ 黒	灰黄褐~ 黒	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒(金雲母)含む	底部に板状瓦痕 内外面に煤付着	201410 000142
42 第13図	SK1	土師器	坏	13.0	7.4	4.2	橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000141

Ⅲ. 調査の記録

第2表 出土遺物観察表②

遺物No	出土遺構	種 別	器 形	法量			色調		調整		胎 土	備 考	遺物登録 番 号
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	外面	内面	外面	内面			
43 第13図	SK 1	土師器	坏	13.2	7.7	4.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000104
44 第13図	SK 1	土師器	坏	13.2	7.4	3.6	橙～ にぶい黄橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000139
45 第13図	SK 1	土師器	坏	13.3	7.9	3.4	にぶい黄橙～ 橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕 内外面に油煙付着	201410 000077
46 第13図	SK 1	土師器	坏	13.3	7.4	3.5	浅黄橙～ 橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、細砂粒含む	底部に板状瓦痕 内面に油煙付着	201410 000109
47 第13図	SK 1	土師器	坏	[6.5]	[6.8]	[3.4]	橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り 跡も目	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、細砂粒含む		201410 000065
48 第13図	SK 1	土師器	坏	13.4	7.8	3.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000116
49 第14図	SK 1	土師器	坏	13.4	7.3	3.9～ 4.0	にぶい橙	にぶい橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕 内外面に油煙付着	201410 000113
50 第14図	SK 1	土師器	坏	13.4	7.0	3.7	にぶい黄橙	灰黄褐～ 褐灰	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000132
51 第14図	SK 1	土師器	坏	[13.4]	7.8～ 8.0	3.4	にぶい黄褐	にぶい黄橙 にぶい黄褐	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒(雲母・ 長石・石英)含む	底部に板状瓦痕	201410 000042
52 第14図	SK 1	土師器	坏	[13.6]	7.2	(2.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000015
53 第14図	SK 1	土師器	坏	[13.6]	6.7	(3.7)	橙	橙	回鹳ナデ 回鹳ヘラケズリ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、細砂粒含む	底部に板状瓦痕 内外面に油煙付着	201410 000137
54 第14図	SK 1	土師器	坏	13.8	8.0	3.3	橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000126
55 第14図	SK 1	土師器	坏	13.8	7.6	3.8	にぶい橙	にぶい橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕	201410 000086
56 第14図	SK 1	土師器	坏	[13.7]	[7.5]	(3.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙～ にぶい褐	回鹳ナデ ヘラ切り・ナデ	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000118
57 第14図	SK 1	土師器	坏	[14.2]	7.5	(3.6)	橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕 内外面に油煙付着	201410 000133
58 第14図	SK 1	土師器	坏	12.9	7.2～ 7.3	(2.7～ 3.8)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、(雲母・ 長石・石英)含む	底部に草葉状の瓦痕 外面に油煙付着 内面に煤付着	201410 000054
59 第14図	SK 1	土師器	坏	—	—	(3.6)	にぶい黄橙	にぶい橙	回鹳ナデ	回鹳ナデ	微砂粒含む	外面に墨書	201410 000191
60 第14図	SK 1	土師器	坏	[13.5]	—	(3.6)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回鹳ナデ	回鹳ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	外面に墨書	201410 000272
61 第14図	SK 1	土師器	坏	[13.0]	[7.2]	(4.0)	にぶい橙	にぶい橙～ にぶい褐	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に板状瓦痕 外面に墨書	201410 000275
62 第14図	SK 1	土師器	坏	—	—	(2.9)	橙	橙	回鹳ナデ	回鹳ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	外面に墨書	201410 000267
63 第14図	SK 1	土師器	坏	12.6	7.8	3.4	橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む	外面に墨書 内面に赤色粉付着	201410 000279
64 第14図	SK 1	土師器	坏	[12.4]	7.1	(3.0)	にぶい黄橙	にぶい橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、細砂粒含む	底部に板状瓦痕 外面に墨書	201410 000186
65 第14図	SK 1	土師器	坏	[13.0]	[7.7]	(3.6)	にぶい橙	にぶい黄橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	外面に墨書	201410 000283
66 第14図	SK 1	土師器	坏	13.2	7.5	3.5～ 3.8	にぶい黄橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	外面に墨書	201410 000281
67 第14図	SK 1	土師器	坏	[13.4]	[7.6]	(3.6～ 3.8)	にぶい黄橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母・石英)含む	外面に墨書	201410 000289
68 第14図	SK 1	土師器	坏	13.4～ 13.6	6.8～ 7.2	3.6～ 4.5	橙 灰	橙 にぶい黄橙	回鹳ナデ 回鹳ヘラケズリ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (長石・雲母)含む	底部に板状瓦痕 外面に墨書 外面赤色化	201410 000280
69 第14図	SK 1	土師器	坏	[12.6]	7.0	(3.7)	にぶい黄橙	にぶい橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ	微砂粒含む	内面に煤	201410 000072
70 第14図	SK 1	土師器	坏	—	[7.4]	(1.0)	橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む	内面に赤色顔料 (ベンガラ)	201410 000031
71 第14図	SK 1	土師器	皿	[14.2]	[10.0]	(1.4～ 1.8)	橙 灰	橙 にぶい橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母・長石・石英)含む	底部に板状瓦痕 内面に煤付着	201410 000041
72 第14図	SK 1	土師器	皿	14.2～ 14.4	8.0	2.1～ 3.2	灰黄褐 黒褐	にぶい黄褐	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母)含む	底部に板状瓦痕	201410 000081
73 第14図	SK 1	土師器	皿	15.2～ 15.4	10.0～ 10.3	2.0～ 2.7	にぶい黄橙 褐灰	橙 灰黄褐	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒(雲母・ 石英・長石)含む	底部に板状瓦痕	201410 000052
74 第14図	SK 1	土師器	皿	[13.6]	[8.0]	(1.9～ 2.1)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母・長石)含む	底部に板状瓦痕 外面に墨書	201410 000255
75 第14図	SK 1	土師器	皿	14.9～ 15.2	9.6	1.7～ 2.2	橙 にぶい黄橙	にぶい橙 にぶい黄橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母・石英)含む	底部に板状瓦痕 外面に墨書	201410 000282
76 第14図	SK 1	土師器	皿	[14.0]	[8.7]	(2.0)	にぶい橙～ にぶい黄橙	にぶい橙～ にぶい黄橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕 内面に墨書	201410 000026
77 第14図	SK 1	土師器	皿	—	—	(1.3)	にぶい橙	にぶい橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状瓦痕 外面底部に墨書	201410 000179
78 第14図	SK 1	土師器	皿	[16.5]	[12.4]	(2.1)	橙	橙	回鹳ナデ 回鹳ヘラケズリ ナデ	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	底部に墨書	201410 000190
79 第14図	SK 1	土師器	皿	14.4	9.6	2.2～ 2.5	橙 にぶい黄橙	橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母)含む	底部に板状瓦痕 外面に墨書 内面に油煙付着	201410 000239
80 第15図	SK 1	土師器	皿	13.7	8.6	2.0～ 2.2	にぶい橙	にぶい橙	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む	内外面に煤	201410 000274
81 第15図	SK 1	土師器	皿	[16.2]	10.4	(2.1～ 2.4)	にぶい橙 にぶい褐	にぶい黄橙 にぶい褐	回鹳ナデ ヘラ切り	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母)含む	底部に板状瓦痕 内外面に煤付着	201410 000101
82 第15図	SK 1	土師器	塊	14.5	9.1	7.5～ 7.8	橙	浅黄橙	回鹳ナデ ナデ	回鹳ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000129
83 第15図	SK 1	土師器	塊	[14.7]	9.6	8.0	にぶい橙	にぶい橙	回鹳ナデ 回鹳ヘラケズリ ナデ	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	外面に5条の沈線	201410 000094
84 第15図	SK 1	土師器	塊	14.8	9.3	7.3	にぶい橙	橙	回鹳ナデ	回鹳ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000140

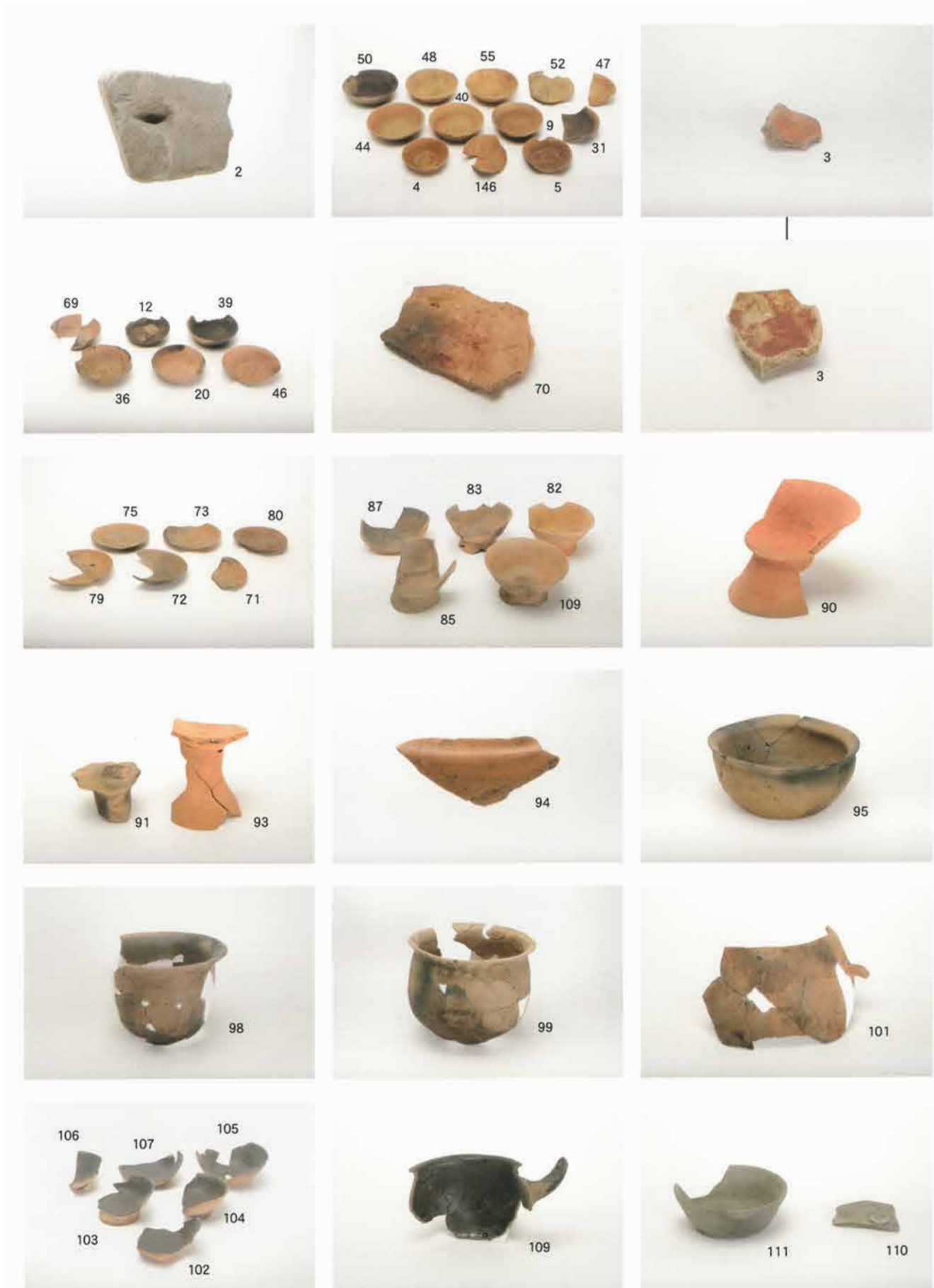
第3表 出土遺物観察表③

遺物No	出土遺構	種 別	器 形	法量			色調		調整		胎 土	備 考	遺物登録 番 号
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	外面	内面	外面	内面			
85 第15図	SK1	土師器	埴	[15.4]	[9.2]	(7.2)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000084
86 第15図	SK1	土師器	埴	[15.5]	8.8	(8.2)	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000024
87 第15図	SK1	黒色土器 A類	埴	[16.0]	—	(6.0)	橙	黒褐 にぶい黄橙	回転ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り	ミガキ	微砂粒(長石・石英・ 雲母)含む		201410 000044
88 第15図	SK1	土師器	埴	[17.4]	—	(5.1)	橙	橙	回転ナデ	回転ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000034
89 第15図	SK1	土師器	埴	14.4～ 14.9	8.8～ 9.0	7.4～ 8.1	橙	橙	回転ナデ 回転ヘラケズリ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (雲母・石英)含む	外面に墨書 内外面に割垂付着	201410 000277
90 第15図	SK1	土師器	高台杯	[19.6]	[15.0]	(13.2)	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000115
91 第15図	SK1	土師器	高杯	—	—	(7.4)	にぶい黄橙～ 灰黄褐	灰黄褐	回転ナデ ナデ	ナデ	微砂粒含む		201410 000038
92 第15図	SK1	土師器	高杯	—	12.0	(3.9)	暗黄褐	にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	微砂粒(角閃石)含む	外面に墨痕 内面に黒色物付着	201410 000064
93 第15図	SK1	土師器	高杯	—	[13.0]	(14.2)	橙	橙	回転ナデ ナデ	ナデ	微砂粒含む		201410 000090
94 第15図	SK1	土師器	托鉢	—	—	(2.8)	橙	橙	回転ナデ ナデ	回転ナデ	微砂粒含む		201410 000019
95 第15図	SK1	土師器	鉢	15.8～ 16.2	9.6～ 9.8	6.1	灰黄褐 にぶい黄橙 黒	にぶい黄橙 灰黄褐	回転ナデ・ヘラ切り 回転ヘラケズリ ミガキ	ミガキ	赤色粒子、細砂粒 (長石・石英・雲母)含む 4mm大の石粒など	底部に穿孔 破損後被熱の可能性 外面底部に朱灰付着	201410 000053
96 第15図	SK1	土師器	甕	—	—	(8.8)	にぶい黄	にぶい黄	刷毛目	回転ナデ	細砂粒(金雲母)含む		201410 000105
97 第15図	SK1	土師器	甕	[21.8]	—	(10.5)	褐灰	灰褐	回転ナデ 刷毛目	回転ナデ 刷毛目	微砂粒含む	外面に指押さえ痕	201410 000102
98 第15図	SK1	土師器	甕	[22.6]	—	(15.0)	にぶい黄褐	黄褐～ 黒	回転ナデ 刷毛目・ミガキ	ミガキ ナデ	細砂粒(金雲母)含む		201410 000095
99 第15図	SK1	土師器	甕	28.2	—	(24.2)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	回転ナデ 刷毛目	刷毛目 ケズリ	砂粒含む		201410 000056
100 第15図	SK1	土師器	甕	[25.6]	—	(13.5)	橙～ にぶい黄橙	にぶい黄	回転ナデ 刷毛目	回転ナデ ケズリ	赤色粒子、砂粒含む	外面に墨書 内面に墨痕	201410 000266
101 第16図	SK1	土師器	移動式甕	[20.3]	—	(14.9)	橙	橙	ケズリ 刷毛目	ナデ 刷毛目	砂粒含む	内面に煤付着	201410 000068
102 第16図	SK1	黒色土器 A類	埴	[12.8]	—	(5.8)	橙	黒	ミガキ 回転ナデ ナデ	ミガキ	赤色粒子、微砂粒 (雲母)含む		201410 000069
103 第16図	SK1	黒色土器 A類	埴	[13.4]	7.8	6.3～ 6.8	にぶい黄	黒	回転ナデ 回転ヘラケズリ ナデ	ミガキ	微砂粒含む	外面に墨痕	201410 000089
104 第16図	SK1	黒色土器 A類	埴	[13.4]	[7.4]	5.6	橙	黒	ミガキ・回転ナデ 回転ヘラケズリ ナデ	ミガキ	赤色粒子、微砂粒含む	外面被熱	201410 000058
105 第16図	SK1	黒色土器 A類	埴	15.8	—	(6.4)	にぶい黄橙	黒	ミガキ 回転ナデ	ミガキ	微砂粒含む		201410 000100
106 第16図	SK1	黒色土器 A類	埴	[16.8]	—	(6.9)	橙	黒	ミガキ 回転ヘラケズリ 回転ナデ	ミガキ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000039
107 第16図	SK1	黒色土器 A類	埴	[17.0]	—	(6.0)	にぶい黄橙～ 黒	黒	ミガキ 回転ヘラケズリ 回転ナデ	ミガキ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000097
108 第16図	SK1	黒色土器 A類	埴	—	—	(9.6)	橙～黒	黒	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000014
109 第16図	SK1	黒色土器 A類	把手付甕	[12.8]	—	(8.9)	にぶい黄褐	黒	ミガキ 刷毛目	ミガキ	微砂粒(角閃石)含む	外面に煤付着	201410 000079
110 第16図	SK1	須恵器	蓋	—	—	(1.8)	灰黄褐	灰黄褐	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	微砂粒含む		201410 000134
111 第16図	SK1	須恵器	高台付埴	12.4	8.2	4.6	黄灰	黄灰	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	細砂粒含む		201410 000119
112 第16図	SK1	須恵器	高台付埴	—	9.3	(5.7)	灰黄	灰黄	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000092
113 第16図	SK1	須恵器	杯	—	[8.8]	(2.0)	灰	灰	回転ナデ 配点ヘラケズリ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒(長石・石英・ 雲母)含む	外面底部に集状の 描画	201410 000284
114 第16図	SK1	須恵器	壺	—	—	(3.7)	橙	にぶい赤褐	回転ナデ	回転ナデ	微砂粒含む		201410 000021
115 第16図	SK1	須恵器	甕	—	—	(2.9)	にぶい黄橙	にぶい黄橙 ～褐灰	刷毛目 回転ナデ	回転ナデ	微砂粒含む		201410 000106
116 第16図	SK1	須恵器	甕	—	—	(6.6)	にぶい黄～ 黄灰	にぶい黄	回転ナデ タタキ ナデ	回転ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000023
117 第16図	SK1	須恵器	壺	—	—	(10.6)	灰	にぶい黄	回転ナデ ケズリ	回転ナデ	微砂粒含む		201410 000075
118 第16図	SK1	白磁	碗	[15.4]	7.2	(4.1～ 4.3)	灰白	灰白	施釉	施釉	精良	1～1類 砂の目高台 見込目跡	201410 000049
119 第16図	SK1	青磁	碗	[12.2]	—	(4.0)	オリーブ灰	オリーブ灰	施釉	施釉	精良		201410 000063
120 第16図	SK1	緑釉陶器	碗	—	—	(1.2)	灰白	灰白	施釉	施釉	精良		201410 000135
121 第16図	SK1	緑釉陶器	壺	—	—	(2.5)	オリーブ黄	灰白	施釉	回転ナデ	微砂粒(石英・長石)含む		201410 000045
122 第16図	SK1	陶器	壺	—	[10.8]	(8.2)	浅黄 にぶい黄橙	にぶい黄橙	施釉 回転ナデ	回転ナデ	精良		201410 000136
123 第16図	SK1	土製品	羽口	4.4	4.5	2.5	灰黄褐 橙 黒	褐灰			砂粒含む		201410 000121
124 第16図	SK1	土製品	羽口?	5.5	5.0	3.4	浅黄橙 灰黄褐	灰黄褐 灰褐			精良		201410 000029
125 第16図	SK1	土師器	埴	[7.2]	[2.2]	4.5	橙	橙	ナデ 押さえ	ナデ 押さえ	砂粒(石英)含む		201410 000062
126 第16図	SK1	瓦	丸瓦	13.3	8.9	1.5	灰白	灰白	繻目	布目	精良		201410 000032

Ⅲ. 調査の記録

第4表 出土遺物観察表④

遺物No	出土遺構	種 別	器 形	法量			色調		調整		胎 土	備 考	遺物登録 番 号
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	外面	内面	外面	内面			
127 第16図	SK1	瓦	丸瓦	9.7	9.2	1.8	灰白 灰	灰白 灰	ナデ	布目	精良		201410 000096
128 第16図	SK1	瓦	丸瓦	7.6	11.7	2.3	にぶい 橙	にぶい 橙	タタキ ナデ	布目	砂粒含む		201410 000122
129 第16図	SK1	瓦	丸瓦	13.5	6.7	1.6	灰白	灰	タタキ ナデ	布目	ほぼ精良		201410 000088
130 第17図	SK1	瓦	丸瓦	15.3	8.9	2.2	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙 黒	タタキ ナデ	布目	少量の砂粒含む		201410 000144
131 第17図	SK1	瓦	丸瓦	15.1	12.0	1.4	灰黄 灰白	灰白 灰	タタキ ナデ	布目	ほぼ精良		201410 000117
132 第17図	SK1	瓦	丸瓦	(9.4)	(8.8)	(5.8)	灰白	灰	ナデ	布目	細砂粒(角閃石・ 石英)含む		201410 000067
133 第17図	SK1	瓦	丸瓦	(20.1)	(12.4)	7.5	にぶい 赤褐 にぶい 橙	にぶい 赤褐 にぶい 橙	タタキ ナデ	布目	少量の石粒含む		201410 000070
134 第17図	SK1	瓦	平瓦	12.2	8.7	2.3	灰	灰	布目	タタキ	精良		201410 000123
135 第17図	SK1	石製品	軽石	8.8	5.6	2.6	灰黄						201410 000016
136 第17図	SK1	石製品	金床石	18.9	7.2	5.0	赤褐					砂岩製	201410 000067
137 第17図	SK1	鉄製品	刀子	10.0	1.3	0.7	褐						201410 000033
138 第17図	SK1	鉄製品	釘	8.3	1.8	1.0	黒褐						201410 000027
139 第17図	SK1	鉄製品	釘	5.4	1.1	0.9	暗茶褐						201410 000018
140 第17図	SK1	鉄製品	釘	4.8	1.2	0.7	暗茶褐						201410 000035
141 第17図	SK1	鉄製品	不明	(3.5)	(2.9)	(0.6)	暗茶褐						201410 000048
142 第17図	SK1	鉄製品	不明	8.5	5.5	3.0	にぶい 黄褐						201410 000025
143 第17図	SK1	鉄製品	埴型滓	8.5	7.2	3.5	暗茶褐						201410 000120
144 第17図	SK1	鉄製品	埴型滓	9.1	6.9	3.6	灰褐						201410 000028
145 第18図	SK50	土師器	坏	12.6~ 13.0	7.5~ 7.8	2.9	橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒(雲母・ 長石・石英)含む	外面底部に草状痕	201410 000171
146 第18図	SK50	土師器	坏	12.7~ 13.0	7.4~ 7.7	3.7~ 4.1	にぶい 黄橙 橙 明褐	にぶい 黄橙 橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒(雲母・ 長石・石英)含む	内外面に油煙付着	201410 000172
147 第18図	SK50	土師器	坏	13.6	7.0	4.0~ 4.2	にぶい 橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む	底部に板状王痕	201410 000167
148 第18図	SK50	土師器	坏	[12.8]	[6.9]	(3.5)	橙	にぶい 橙	回転ナデ ヘラ切り ナデ	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒 (金雲母)含む	外面底部に墨書	201410 000285
149 第18図	SK50	土師器	坏	[13.0]	6.8	3.5	にぶい 橙	にぶい 橙	回転ナデ ヘラケズリ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む	外面に墨書	201410 000288
150 第18図	SK50	土師器	皿	14.6~ 15.0	9.8~ 10.0	1.8~ 2.3	にぶい 黄橙 橙	にぶい 黄橙 橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒(雲母・石英・ 長石)含む	底部に板状王痕 内外面に油煙痕	201410 000170
151 第18図	SK50	土師器	皿	15.7~ 15.9	11.0~ 11.2	1.6~ 2.1	橙 にぶい 黄橙	橙 にぶい 黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒(雲母・ 長石・石英)含む	底部に板状王痕 外面に油煙付着 口縁部打ち欠きか	201410 000169
152 第18図	SK50	土師器	皿	16.6	12.2	1.5~ 1.7	にぶい 橙	にぶい 橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000166
153 第18図	SK50	土師器	托	15.6	8.9	5.1	にぶい 橙	橙	回転ナデ ヘラケズリ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000168
154 第18図	SK50	土師器	甕	[28.4]	—	(21.1)	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	回転ナデ 刷毛目	回転ナデ ケズリ	細砂粒含む	外面に煤付着	201410 000154
155 第18図	SK50	土師器	甕	—	—	(15.8)	にぶい 橙	にぶい 黄橙	刷毛目 ケズリ	ナデ	赤色粒子、砂粒 (角閃石)含む		201410 000160
156 第18図	SP120	瓦	平瓦	(22.5)	23.7	2.1	灰黄	灰黄	布目	縄目			201410 000012
157 第18図	SP103	土師器	坏	[12.2]	[6.8]	(3.5)	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ ナデ	微砂粒含む		201410 000010
158 第18図	SP41	土師器	坏	[14.4]	[11.0]	(4.1)	橙	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ	微砂粒含む		201410 000004
159 第18図	SP19	土師器	坏	—	[11.0]	(3.5)	灰黄褐	橙	回転ナデ ヘラ切り	回転ナデ			201410 000001
160 第18図	SP43	土師器	皿	[18.4]	[14.8]	(2.3)	橙	橙	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	赤色粒子、微砂粒含む		201410 000005
161 第18図	SP40	土師器	甕	[23.6]	—	(12.2)	橙	にぶい 橙~ 橙	回転ナデ 刷毛目	回転ナデ ケズリ	赤色粒子、細砂粒 (金雲母)含む	内面に煤付着	201410 000003
162 第18図	SK20	須恵器	壺	—	—	(3.7)	灰	黄灰	回転ナデ	回転ナデ	微砂粒含む		201410 000002
163 第18図	SP103	緑釉陶器	埴	—	—	(3.5)	浅黄 浅黄橙	浅黄 浅黄橙	施釉	施釉	精良		201410 000011
164 第18図	SP45	石製品	砥石	11.9	11.9	3.6	灰褐						201410 000006
165 第18図	SP91	石製品	砥石	20.0	4.7	1.9	灰黄褐						201410 000007

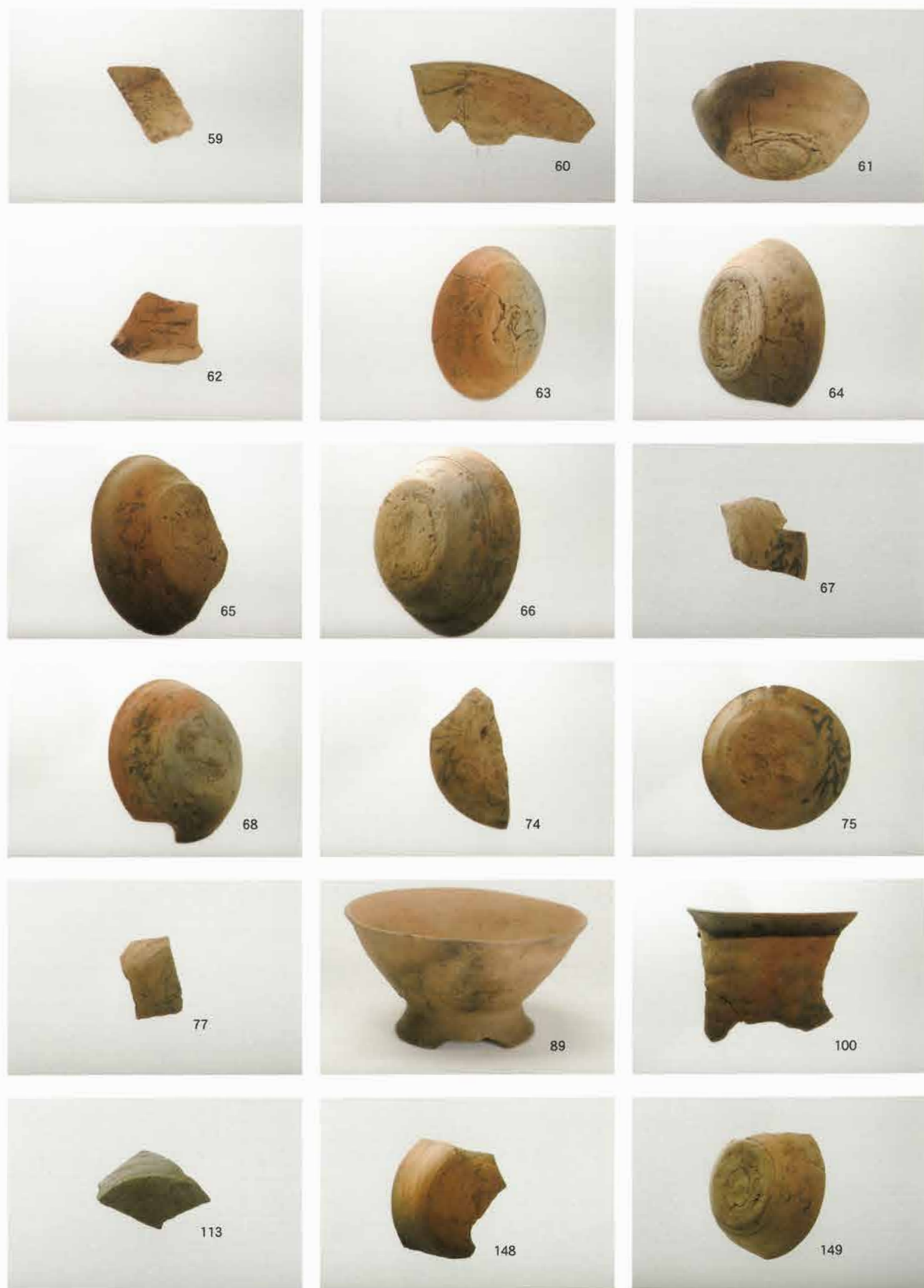


第 19 図 出土遺物写真①

Ⅲ. 調査の記録



第20図 出土遺物写真②



第 21 図 出土遺物写真③

IV. 総括

1. 遺構について

本調査では掘立柱建物4棟、溝1条、土坑2基など、多くの遺構が検出された。最も古く位置付けられる遺構は、重複関係からSB113、SB120、SD10が考えられる。SD10は溝の浅さや直線的に走行しているため、雨落ち溝の可能性がある。SB113とSD10は方向軸がほぼ同じであるため、近い時期に機能していたことが想定される。またSB113に後出するSB108とSB110も計画方位が等しく、同様のことが想定される。SB108、SB113はともに桁行6間以上の建物で通常の集落ではあまりみられない規模を有する。しかし、一方で、柱穴の形状は円形、隅丸方形、楕円形と一定ではなく、直径は0.4～1.0mの範囲で統一されていない。また、柱筋が通らない部分もあり、柱間も等間でない箇所が多く一定しない。このような点は官衙遺跡と異なる。遺構の掘方が大きさや出土した遺物の特徴から、掘立柱建物は9世紀前半を遡ると考えられる。今回の調査では4棟のみ確認できたが、調査区北側では掘方の直径が大きく、深さのあるピットが多くみられたため、柱穴となるピットが存在する可能性がある。

SK1、SK50は、出土遺物から9世紀後半に属すると考えられる。出土遺物は、供膳具が大半を占めるが、甕や甔、移動式竈などの調理具もみられる。一方で、油煙が付着した土師器や墨書土器が多く、緑釉陶器や輸入陶磁器も出土していることから、官衙との関連が想起される。また、鉄滓や羽口片などが生産に関わる資料もみられる。今回の調査ではSK1、SK50と同時期の建物跡が確認できなかったため、調査地周辺における今後の調査の進展が望まれる。

2. 墨書土器について

先述したとおり本調査では細片も含め、116点の墨書土器が出土した。その中でも「宅代」と記された土器が9点と特に多くみられる。破片の資料で「宅」、「代」と書かれている資料も複数みられることから、さらに多くなることが想定される。この書体は様々で、複数の人物が記した可能性や、文字を知らない人物が模写していくうちに書体に差が生じた可能性が考えられる。形が大きく崩れ、文字判別が難しい資料が多くみられることから、後者の可能性が高いと考えられる。「宅代」と記された墨書土器は、島根県浜田市古市遺跡や熊本県合志市から出土しているが、その読みや意味など詳細は不明である。63・68・78は「宅代」の前に文字が記載されている。63・68は同じ字が記されているようだが、判別できない。78は一部欠けているため断定はできないが、第6次調査で確認された「茅原」の茅のようにみえる。「茅原」は『(筑後国)神名帳』内に記載されている「茅原神」のことと考えられている。多くの「宅代」が出土しているため、この文字の意味が判明すれば遺跡の性格を知る手掛かりとなる可能性がある。

文字を記した資料以外に、100の人面墨書土器片や113の線刻土器もある。人面墨書土器は右目部分のみが残存しており、他の箇所は確認できなかった。使用の際、故意に破碎した可能性が高い。113には植物の葉の絵が焼成前に描かれており、多くの葉脈が確認できるほど緻密に描かれている。

今回の調査では、多くの墨書土器や緑釉陶器、輸入陶磁器が出土し、官衙遺跡ほど統一された規

格を有しては無いが、桁行6間以上の掘立柱建物が2棟検出されるなど、一般の集落ではみられない様相を呈す。節原郷の中でも中心となる施設である可能性が高い。また、遺構の密度から、第6次調査の南部から本調査地北部の範囲が、南薫西遺跡の中心となることが想定される。

第5表 墨書・刻書土器観察表

遺物NO.	種別	器種	部位	鮮明度	記載文字	遺構	登録番号	遺物NO.	種別	器種	部位	鮮明度	記載文字	遺構	登録番号
	土師器	坏	坏片	不鮮明	(カナ文字か?)	SK1	201410000055		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000232
	土師器	坏	完形	不鮮明	廿	SK1	201410000086		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000233
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000175		土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	顔の絵?山?	SK1	201410000234
	土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000176		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000235
	土師器	坏	口縁部	鮮明	□立?	SK1	201410000177		土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	大?死?	SK1	201410000236
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000178		土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000237
77	土師器	坏	底部	鮮明	厨道	SK1	201410000179		土師器	皿	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000238
	土師器	坏	底部	鮮明	□代	SK1	201410000180	79	土師器	皿	皿片	鮮明	井中?	SK1	201410000239
	土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000181		土師器	甕	胴部	不鮮明	不明(絵?)	SK1	201410000240
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000182		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000241
	土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000183		土師器	坏	口縁部	鮮明	坏	SK1	201410000242
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000184		土師器	坏	口縁部	鮮明	坏	SK1	201410000243
	土師器	坏	底部	鮮明	不明	SK1	201410000185		土師器	坏	口縁部	鮮明	坏	SK1	201410000244
64	土師器	坏	坏片	鮮明	宅	SK1	201410000186		土師器	坏	口縁部	鮮明	坏	SK1	201410000245
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000187		土師器	坏	口縁部	鮮明	都?	SK1	201410000246
	土師器	坏	底部	鮮明	不明	SK1	201410000188		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000247
	土師器	皿	口縁部	鮮明	□代?	SK1	201410000189		土師器	坏	口縁部	不鮮明	不明	SK1	201410000248
78	土師器	皿	底部	鮮明	不明	SK1	201410000190		土師器	坏	底部	不鮮明	不明	SK1	201410000249
59	土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	高(商)弓口大	SK1	201410000191		土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000250
	土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000192		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000251
	土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000193		土師器	坏	底部	不鮮明	不明	SK1	201410000252
	土師器	坏	底部	不鮮明	不明	SK1	201410000194		土師器	坏	底部	不鮮明	不明	SK1	201410000253
	土師器	坏	底部	鮮明	不明	SK1	201410000195		土師器	坏	底部	不鮮明	不明	SK1	201410000254
	土師器	坏	底部	鮮明	不明	SK1	201410000196	74	土師器	皿	口縁部	鮮明	茅?宅代	SK1	201410000255
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000197		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000256
	土師器	坏	口縁部	不鮮明	不明	SK1	201410000198		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000257
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000199		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000258
	土師器	皿	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000200		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000259
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000201		土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000260
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000202		土師器	坏	底部	やや不鮮明	井?	SK1	201410000261
	土師器	坏	細片	鮮明	不明	SK1	201410000203		土師器	坏	底部	やや不鮮明	□之□?	SK1	201410000262
	土師器	坏	細片	鮮明	不明	SK1	201410000204		土師器	坏	口縁部	鮮明	代?	SK1	201410000263
	土師器	坏	底部	鮮明	ウ冠	SK1	201410000205		土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000264
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000206		土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000265
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000207	100	土師器	甕	口縁部	やや不鮮明	人面(目)	SK1	201410000266
	土師器	坏	細片	やや不鮮明	不明	SK1	201410000208	62	土師器	坏	底部	鮮明	寺	SK1	201410000267
	土師器	坏	細片	鮮明	不明	SK1	201410000209		土師器	坏	口縁部	鮮明	宅?	SK1	201410000268
	土師器	坏	細片	鮮明	不明	SK1	201410000210		土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000269
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000211		土師器	坏	口縁部	鮮明	代?	SK1	201410000270
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000212		土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000271
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000213	60	土師器	坏	口縁部	鮮明	寺	SK1	201410000272
	土師器	坏	細片	鮮明	不明	SK1	201410000214		土師器	埴	底部	やや不鮮明	絵?(線)	SK1	201410000273
	土師器	皿	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000215		土師器	皿	皿片	不鮮明	十?	SK1	201410000274
	土師器	坏	口縁部	不鮮明	不明	SK1	201410000216	61	土師器	坏	坏片	不鮮明	□(読み方不明)	SK1	201410000275
	土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	□□□	SK1	201410000217		土師器	埴	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000276
	土師器	皿	底部	鮮明	不明	SK1	201410000218	89	土師器	埴	完形	やや不鮮明	馬	SK1	201410000277
	土師器	皿	底部	鮮明	不明	SK1	201410000219		土師器	埴	底部	不鮮明	不明	SK1	201410000278
	土師器	坏	細片	鮮明	不明	SK1	201410000220	63	土師器	坏	完形	不鮮明	去?宅代	SK1	201410000279
	土師器	皿	口縁部	鮮明	宅代	SK1	201410000221	68	土師器	坏	坏片	やや不鮮明	□宅代?	SK1	201410000280
	土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000222	66	土師器	坏	完形	やや不鮮明	宅代	SK1	201410000281
	土師器	埴	埴片	不鮮明	不明	SK1	201410000223	75	土師器	皿	完形	鮮明	宅代	SK1	201410000282
	土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	ウ	SK1	201410000224	65	土師器	坏	坏片	鮮明	宅代	SK1	201410000283
	土師器	坏	口縁部	鮮明	大口	SK1	201410000225	148	土師器	坏	坏片	やや不鮮明	宅代	SK50	201410000285
	土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	家?	SK1	201410000226		土師器	坏	底部	不鮮明	不明	SK50	201410000286
	土師器	坏	口縁部	やや不鮮明	不明	SK1	201410000227		土師器	坏	底部	やや不鮮明	不明	SK50	201410000287
	土師器	坏	細片	やや不鮮明	不明	SK1	201410000228	149	土師器	坏	口縁部	鮮明	宅代	SK50	201410000288
	土師器	坏	細片	やや不鮮明	不明	SK1	201410000229	67	土師器	坏	坏片	やや不鮮明	宅代	SK50	201410000289
	土師器	坏	細片	やや不鮮明	不明	SK1	201410000230	113	須恵器	坏	底部	鮮明	線刻(植物の葉)	SK1	201410000284
	土師器	坏	口縁部	鮮明	不明	SK1	201410000231								

報 告 書 抄 録

ふりがな	なんくんにしいせき だい8じはつくつちようさほうこく
書 名	南薫西遺跡 ―第8次発掘調査報告―
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第361集
編著者名	小川原 励 (編)・米澤美詠子
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課
所 在 地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3 TEL 0942-30-9225 FAX 0942-30-9714 E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	2015 (平成27) 年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地		コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
			市町村	遺跡番号					
なんくんにしいせき 南薫西遺跡 だい8じちようさ 第8次調査	くろめし 久留米市 なんくんにしまち 南薫西町 1938-1		40203	—	33 ° 31 ' 68 "	130 ° 52 ' 33 "	20140918 ～20141031	190 m ²	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物			特 記 事 項	
南薫西遺跡 第 8 次調査	集落	奈良 平安	掘立柱建物 溝 土坑	4 棟 1 条 2 基	土師器、須恵器、瓦、 緑釉陶器、輸入陶磁器、 鉄製品、石製品			9 世紀後半の土坑から 墨書土器が 116 点 出土した。	
要 約									
調査地は南薫西遺跡の南部に位置し、標高 14m 前後を測る。検出した主な遺構は、奈良・平安時代を中心として掘立柱建物 4 棟、溝 1 条、土坑 2 基であった。パンコンテナー 18 箱程度の遺物が出土した。9 世紀後半の 2 基の土坑から多量の遺物が出土したが、その中で「宅代」と書かれた資料を中心として 116 点の墨書土器が出土している。また桁行 5 間以上の掘立柱建物が 2 棟検出されており、本遺跡が御井郡節原郷の中心部となる可能性がある。									
土木工事の届出日		平成 26 年 7 月 23 日				遺物の発見通知日		平成 26 年 11 月 6 日 (26 文財第 919 号)	

南薫西遺跡
―第8次発掘調査報告―
久留米市文化財調査報告書 第361集
平成27年9月30日
発行 久留米市教育委員会
編集 久留米市市民文化部文化財保護課
印刷 服部印刷株式会社
久留米市梅満町410-1